



埋立部	栈橋部
接続部	連誘部
環境	その他
工種名:揚土工	

今回の現場日記は、揚土工の経過について紹介します。
 写真①は、平成21年6月頃の埋立部の状況です。揚土が始まって約6ヶ月経過し、ようやく、海上の大部分に埋立面が見えるようになってきたところ。写真②は、写真①より更に6ヶ月経過した状況です。滑走路となる部分が見えるようになってきました。写真③、④は2月現在の現場の状況です。揚土工は、ほぼ完了しており、次の工程（舗装等）が始まろうとしています。



平成21年6月～12月の約6ヶ月間に埋立部に投入された材料は、約1,400万^mに達しました。

参考) 1,400万^mは、東京ドーム約11個分に相当。



平成22年2月現在、揚土工事は、現在も続いており、2月末をもって完了する予定です。今後は、舗装工事等に順次着手していきます。

- 写真③は、揚土工の完成天端（路床）の状況です。（位置は、滑走路中央）
- 写真④は、現空港（C滑走路側）からD滑走路島（埋立部）を撮影。



↑：2月現在、埋立部の地盤高は、海面から約17m程の高さとなり、(ビルにして5～6階建相当) D滑走路島の外形が良く分かるようになってきました。

←：一般的な道路では、路床厚を約1m程度確保しますが、空港では、航空機荷重を支えるために約2m程度確保しています。